



Title	教材「かさこじぞう」研究(二〇一二年度卒業論文要旨集)
Author(s)	柴田, 淑愛
Citation	札幌国語研究, 18: 77-77
Issue Date	2013
URL	http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/7592
Rights	

教材「かさこじぞう」研究

国語科教育学研究室 九四四九 柴田 淑愛

岩崎京子氏の「かさこじぞう」は、民話「笠地蔵」を再話したもので、教科書教材としても他の再話者による作品があるにもかかわらず、長年採用されてきたものである。また、学習指導要領に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が新設され、「かさこじぞう」は民話教材として期待が高まっている。

そこで本研究では岩崎氏の「かさこじぞう」が採用され続けてきた理由と、「かさこじぞう」のもつ民話性について考察した。

岩崎氏の再話の経緯の調査や、民話性の高さが評価されている瀬田貞二氏再話の「かさこじぞう」との比較、絵本と教科書の挿絵の比較を行った。その結果から、岩崎氏の作品は、口伝えの民話には不要なものとされている登場人物の詳しい様子や、周りの様子の描写を再話の際に加えているという特徴があることがわかった。

これを「民話性に欠けている」と指摘するものもあるが、実は、民話にある昔の人々の「願い」を今の我々に共感してもらうために詳しい描写を加えたとも考えられ、「願い」の共有という民話にとって大事な要素を含んでいる。

このように、民話の世界に小学校二年生でも入り込みやすくなっているために、長年教科書に掲載され続けてきた。また、昔の人の「願い」を考えることも民話教材として大切である。